

## 入選

### 水と暮らしを考える

高岡市立牧野中学校 一年 村下 陽音

いつも当たり前のように使っている水道の水。じゃ口をひねると、きれいな水が出て、飲んだり、シャワーをしたりと自由に使うことができる。でも、災害が起きた時、それは一瞬にして崩れてしまうのだ。

もし今、日本のどこかで大きな地震や洪水があると、水道管がこわれ水が出なくなり、飲み水がなくなるだけではなくお風呂やトイレも使えなくなってしまうのだ。

僕の父は、市役所の職員で水道局に勤務していたことがある。

そんな父は、災害があると水道局のトラックに水を積み、ひ災地の人へ水を供給しに行っていた。ぼくは、「なぜ、自分がそんな危険な目に合ってまで、そうするのか？」と聞いてみた。

父は言った。

「水は、みんなの快適な暮らしや、様々な活動を支えている。だから、どんな人にとっても重要なんだ。もし、安全な水がないと病気になる失われる命もあるんだよ。」と。

ひ災地で、供給する水は生活水だけでなく病院の治療に使う水が多かったと父は教えてくれた。

確かに水がなくなったら、僕たちの暮らしが変わってしまうのだろう。でも、それ以上に、父の話から安全な水がないと失われてしまう命があることを、ぼくはその時初めて知った。

災害に限らず、もし何かの原因で、水がなくなってしまうたら・・・と思うと、正直、不安でいっぱいになった。

じゃあ、どうするのか？僕にできることはないだろうか？水そして安全な暮らしを守るために、自分のできることを考えてみた。

今、世界では「SDGs」持続可能な開発目標」があります。そのチャレンジの中には「安全な水を世界中に」という目標もあります。各自自治体の方や技術者の人は、水道を守るために、いろいろな努力や

開発をしておられる。

僕たち利用者は、まず水をムダにしないこと。そして、水を汚すことのないように気を付けていかなければならない。

一人ひとりができることは小さくても、環境を守ることが僕たちの暮らしを豊かにしていくことにつながっていくと思った。

永遠に豊かな暮らしができることを願ってまず、できることから取り組んでいきたい。